

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 静岡市立由比こども園 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☒ その他（幼保連携型認定こども園）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒421-3103

静岡市清水区由比377-1

E-mail [yuikodomo@city.shizuoka.lg.jp](mailto:yuikodomo@city.shizuoka.lg.jp)

Website [www.yui-en.ednet.jp](http://www.yui-en.ednet.jp)

幼児児童生徒数 男子 12名 女子 13名 合計 25名

幼児・児童・生徒の年齢 3歳～5歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

由比地区では、こども園・小学校・中学校を通じ15年間で子どもを育てるという共通の思いをもち、子ども同士のかかわりを自然な形で設けたり、教職員の連携をとったりしている。また、地域が“由比の子は由比で育てる”という高い意識をもっており、子どもたちを由比の宝として大切にしようとかかわってくれる。

そのため園では、園経営の柱の一つとして、『地域との連携』を掲げ活動してきた。

### ①由比の人形師『望月人形のおじさん』とのかかわり

由比には駿河人形の人形師である望月氏が園の近くに店を構えている。年長になると子どもたちは年に4回ほど来店し、望月氏から五月人形や雛人形等についての話をうかがう。はじめのうちは話の内容が難しく、集中力ももたないのだが、回を重ねるごとに“おじさん”への親しみが増し、お話にぐっと入り込む姿が見られた。そんな姿に望月氏も応えてくれ、3学期には劇場ごっここの参観に来園して下さった。（年長児はアラビアンナイトをテーマに劇をつくった。）次に子どもたちが人形店にうかがったときには、「おじさんもアラビア

ンをしてもいいかな？」と、「アラビ안의マジック」を披露してくれたのである。「おじさん」がアラビ안의魔法使いだと知った子どもたちは大喜びで、望月氏もさらに子どもたちに心を寄せた様子だった。園が地域とのかかわりを大切にすると、地域も園に目を向け、心を向け、そして大きなものを返してくれるということを実感した事例である。

## ②アラビアンの人が由比にいる

今年度の年長は、アラビアンナイトの遊びを楽しんできた。絵本を繰り返し読み、絵本の中に出てくる「バドルルブドール姫」に会いたいと願った。ある日何人かの子どもたちが担任に「バドルルブドール姫に会った！」と話しに来た。話を聞くとそれは園の近くに住む日本人の方のことだった。子どもたちはその方の容姿から「アラビアの人」と思ったのだが、そんなことは何も知らされていなくてもその方は、子どもたちに笑顔で手を振ってくれた。そのため、子どもたちはさらにアラビアの人への思いをふくらめ毎日ドキドキワクワクしながら園生活を送ることができた。

上記以外にも、由比にある様々な文化があり、それらは日々の保育の中で自然に子どもたちの中に落ちている。保育者があえて「由比ってこんな場所だ。」とか、「生まれ育った地域を大切にしなければいけない。」等と教え込まなくても、このような生活を送った子どもたちの中には確実に地域愛や地域の文化への関心、海の向こうの世界への興味が深まっていると感じる。

## ①についての記録



↑人形店でお話を聞く



↑アラビ안의マジック

## ②についての記録



↑アラビアンがテーマの運動会



↑アラビア文字で手紙を書く

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(日々の遊びの中で総合的に)	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

報告に挙げた人材等：望月人形店、近隣住民  
報告に挙げていない人材等：由比漁協、浜のかきあげ屋、マルモ農園、延命寺、地持院、由比本陣、由比おもしろ宿場館、うぐいす会、清水港

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地域との連携について園経営書に以下のように記し、活動に生かすようにしている。

- ①地域の特色（自然や文化）を生かした活動や地域の人々との触れ合いを大事にした経験を積み重ねていく。
- ②ESDの理念を職員で共通理解し、持続的に地域の人材や文化を遊びや生活に取り込んでいく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

○研修

月案、週案、日案に活動の意味も含めて計画し、活動後には必ず子どもの姿や保育者の支援等について反省評価する。

○職員会議

行事案を立てる際、何のためにその活動をするのか、どのような教育的価値があるのかを職員全体で共通理解した上で実施するようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価方法

- ・月案等において、クラス単位の反省・評価
- ・学校評価において、園内での反省・評価、評議員による評価
- ・保護者アンケートによる、保護者からの評価

成果（○）と課題（▲）

○園外に出向く、地域の方を招く等、由比の文化を知る機会が多く、子どもが自然に地域に親しみをもつことができた。

▲保育者の意識が薄いと、なんとなく行事をこなすだけになってしまう。保育者自身が地域へ目をむけ、その価値を知る必要がある。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・ 発表会などを通して、地域に発信  
こちらからアクションを起こせば、地域はさらに園に目を向けあたたかなまなざしを送ってくれる。
- ・ 実践発表として、他園の職員等に向けて活動内容を発信  
自分の園であればどんなことができるだろうかと、各自考え、園にもち返し検討、次年度に生かすことができる。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・ ESDカフェに参加し、自園のことを発信するとともに他園、他校の取り組みについて知る機会となった。
- ・ 生活展を大学と共に企画運営し他園の参加も求めたところ、ユネスコスクール加盟以外の園からも複数参加があり、ESD理念を広げていく機会となった。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール加盟の園が少ないこともあり、他のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成等は現時点ではできていない。今後、上記のような研修会等をいい機会に、いろいろな園・校との交流を深めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 保育者自身がESDという視点をもって活動内容を考えたり、評価したりするようになった。
- ・ 地域、自然、国際社会等のことを保育の中に自然と取り込むことができた。今までなんとなくやってきたことが、実はとても意味あることだと再認識することができた。
- ・ 保護者に発信することにより、保護者自身も地域に目を向ける姿があった。（例：園外保育で行った“おもしろ宿場館”を家族で訪れた等）
- ・ 園の思いを地域の方に伝えながら活動することで、地域の方がさらに一歩踏み込んだ協力をしてくれるようになった。（例・人形師さんが手品をしてくれる等）

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

地域との交流（望月人形店、由比漁港等）や、客船見学等、園外保育を通して、子どもが由比を知り、由比に親しみをもてるような活動を計画している。その際、“なんのために行うのか”を保育者は意識し、子どもたちの心におちる活動にする必要がある。

ESDカフェ等に職員は積極的に参加し、意見交換を行うと共に、次年度は他校・他園とのかかわりも作っていきたいと考える。